

学校教育目標	【か】よく考え 【な】なかよく 【が】がんばる 【わ】わたしたちかなっ子			
	【か】 自らすすんで問題を見つけ、よく考えて判断して行動し、豊かに表現できる子どもを育てます。(知) 【な】 自分や他者のよさを認め合い、個性を発揮しながら他者と豊かにかかわり合う子どもを育てます。(徳) 【が】 自分の心と体に関心を持ち、すすんで健康保持に努めるとともに、体力の向上を目指す子どもを育てます。(体) 【わ】 自分が住む神奈川の「まち」について理解を深め、「まち」とともに育ち「まち」に貢献する子どもを育てます。(公) 多様な文化やひとの存在を理解し、視野を広げて共によりよく生きようとする子どもを育てます。(開)			
学校概要	創立 146 周年	学校長 田名部 和美	副校長 楠田 融	2 学期制 一般学級: 12 個別支援学級: 4
	児童生徒数: 人	主な関係校: 浦島丘中学校、子安小学校、浦島小学校		

教育課程全体で育成を目指す資質・能力	浦島丘中ブロック	小中一貫教育推進ブロックにおける「9年間で育てる子ども像」と具体的取組
	浦島丘中学校 子安小学校 浦島小学校	人とのつながりを大切にし、ねばり強く社会を生き抜く子 「人と人とのつながりを豊かにする社会性」、「課題解決能力」、「創造力と発信力」の3つの共通理解をもとに「ねばり強く社会を行く抜く子」を目指す。 具体的には、年間2回の小中合同授業研究会を通して9年間で育てる子ども像の意識を共有する。また、年間3回の中学校ブロック担当者会において、教育方針を調整する。さらに、児童生徒交流日を設定して児童生徒の小中接続意識化を図る。
自己決定力 かかわり合う力 健やかな心とからだ		

中期取組目標	★★【か】よく考え ★★【な】なかよく 【が】がんばる ★【わ】わたしたちかなっ子
	授業改善を核とし、子どもの自己決定を保障する取組を継続的に行うことで、自らすすんで問題を見つけ、よく考えて行動する子どもを育てます。 様々な場面で子どものよさを価値づけることを通して目標モデルを確立し、また、授業や活動では子どもがかかわり合う場面を保障し、他者と豊かにかかわり合う子どもを育てます。 幼・保・小・中学校、家庭、地域と連携し、それぞれのニーズに応える学校づくりを推進します。

重点取組分野	具体的取組
生きて働く知	①昨年度に進めた授業改善については、全体的にはまだ途上である。着任する実績ある主幹教諭2名を巻き込み、児童主体の授業展開を進める。②「主体的・対話的で深い学び」の中から、具体的な子ども像を洗い出して共有を図る。そのうえで教師間授業観察を推進して指導力向上を図る。
担当 運営B(研究推進)	
豊かな心	①学校教育目標「な」に関連する「かかわり合う力」の育成を推進するために、学校教育目標を各教室に掲示して活用を図る。児童とともに付記しながら足跡を残す。②道徳科の授業デザインを深化させるとともに、生活科・総合的な学習を活用して他者との関わりを充実させる。
担当 運営A(人権・児童指導)	
健やかな体	①コロナ禍想定の下、一校一実践を「短なわ」に変更するほか、運動会の在り方を含む体育科の授業改善を進め、児童が自ら運動を生活に取り込むライフスタイルの確立を目指す。②児童にとって必要感のある課題を設定し、探究型の構造をもたせることで学校保健委員会の充実を図る。
担当 体育・保健	
地域との協働	①生活科、総合的な学習、社会科を中心に地域に根差した学習活動を展開する。ESD推進校2年目の取組の充実を目指す。②学校運営協議会の意見を尊重し、スクールゾーン対策協議会や地域防災拠点運営委員会と連動し、コロナ禍における児童の体験活動の場を模索する。
担当 渉外部(地域連携)	
児童理解・児童指導	①児童支援専任を中心とした児童理解を土台として、誰もが一定の指導を行うを合言葉に一枚岩となって児童指導に当たる。②学校と家庭での指導の方向性をより共通化するために、学校教育目標の趣旨を積極的に発信する。学校だよりやSNSでの発信機会を増やし、共通理解を図る。
担当 児童指導	
幼保小連携	①コロナ禍により昨年度は停滞した幼児教育機関との連携において、できることを模索して職員間相互による研修・交流の充実を図る。②幼児教育機関に学校側が出向き、学校の教育方針を説明する機会を設定するほか、幼児教育機関の方針を理解し、スタートカリキュラムを充実させる。
担当 渉外部(幼保小)・専任	
行事の見直し	①年間計画の刷新を図ったが昨年度の実現は部分的にとどまった。初めて前後期制変更に伴う行事日程や内容について、検証を図ることができそうなので、効果の検証を図り、随時見直しを図る。②児童の必要感に基づく行事になっているかの検証についても行う。
担当 教務	
担当	
いじめへの対応	①専任を昨年度同様授業時数を減らし、児童の状況を具体的に見取り、児童が教職員に話し掛けやすい雰囲気構築するとともにいじめ認知の感度を高めて早期発見を確実に図る。②保護者対応においても、専任と担任が連携して最適な方法を選択し、学校への理解を得られるようにする。
担当 教務部・運営A	
人材育成・組織運営(働き方改革)	①実績のあるミドルリーダー2名が着任したことを活用した学年人材配置を行った。ここを起点に、教職員間での指導体制を充実させる。②校務分掌を変更したものの生み出した時間を有効活用しているとは言いがたい。経験が浅かったため機能させにくかった教務部を充実させ、研修を行うなどしてこの時間の有効活用を図る。
担当 教務部・運営B	